

# 100周年全国校友大会



東京千代田区富士見  
日本歯科大学新聞会  
発行兼 中原 泉  
編集人  
発行日 偶数月末日  
定価 1部10円  
編集室 (〒951-8580)  
新潟市浜浦町1-8  
☎025(267)1500



## 全国から3千名集う

日本歯科大学創立100周年記念全国校友大会は、十月八日、東京四谷のホテルニューオータニで開催された。式典に一千名余り、祝賀会には三千名近い校友が集まって創立100周年を祝った。(写真は式典光景)

### 建学100年を祝う記念式典

全国校友大会の記念式典は、平成十八年十月八日、ホテルニューオータニ「芙蓉の間」において行われた。当日は秋晴れの穏やかな陽気となり、全国各地から千代田区の会場に校友が参集した。定刻の正午、荘厳な雅楽の調べが流れる中、東儀秀樹氏が本学百周年を祝う舞を舞ったあと、白井京子アナウンサーの司会により開式した。舞台両側の大スクリーンに、進行の様子が鮮やかに映しだされる。

まず、斎藤尊校友会副会長が開式の辞を述べ、光安一夫会長は、「今こそ日本歯科大学を高らかに謳いあげ、今後も努力精進する」と格調高く式辞を述べ(四面に全文)、つづいて中原泉理事長・学長は、「母校の百周年に巡り合わせた幸運を共に慶びたい」と挨拶した(四面に全文)。

つぎに、来賓を代表して大久保満男日本歯科医師会会長は、「日本歯科大学の百年の歴史は、日本の近代歯科医学、近代歯科医療の歴史と軌を一にしている。歯科医療は国策として発達しなかったため、創

### 医学に際立つ貢献をされた功績に最高の評価を

立者の中原市五郎先生には、大変なご努力ご苦労があったと思う。この百年、地域の医療人を優秀な指導者として育て、歯科医師会に送られた日本歯科大学校友会の皆さまには、次の百年に向かって、さらに歯科界を指導していただけるようお願いしたい」と祝辞を述べた。全国歯科大学・歯学部同窓・校友会の代表として、東京歯科大学同窓会の天野恵会長は「日本歯科大学は歯科医学の発展に大きく貢献された。卒業生の先生方は歯科界の雄として、国民の期待に応えられる哲学を持って隆盛を図られ、現在の基礎を築かれたことに敬服している。未永い交友をお願い申し上げたい」と祝辞を述べた。

つづいて、メリーランド大学のクリスチャン・ストローラー歯学部部長は、「メリーランド歯学部部の前身は、一八四〇年に創立された世界で最古のボルチモア歯科医学学校である。九十年前の一八六六年六月十一日、メリーランド大学では、日本歯科大学の創立者である中原市五郎先生の、当時の歯科

の発展に尽力された。NPOカラー西アフリカ農村自立協会代表理事の村上一枝先生(五十四回卒)は、一九八九年に西アフリカのマリ共和国にボランティアとして参加され、以来十七年間にわたって同国の農村に住み、保健衛生と生活の向上に尽力された。光安会長より、三氏を代表して周汝川先生に表彰状が贈呈された。ついで、校友会活動に永年にわたり尽力した諸氏一七四氏が表彰され、代表として生野秀一先生(三十二回卒)に感謝状が贈呈された。受賞者を代表して生野先生は、「創立百周年という日本の意義ある世紀の式典にて、私ども一七四名が表彰いただいたことは身に余る光栄である。(二面につづく)



### 前衛美術の 中原實先生絵画展

全国校友大会の当日、十月八日、式典会場「芙蓉の間」の隣室で、中原實名誉学長の絵画作品が午後二時まで展示された。中原實先生は、一九二〇〜三〇年代の日本の前衛美術運動の先駆者であり、美術史上に残る作品群は、現在、東京都現代美術館に寄託されている。あわせて、今回の絵画展会場において、百周年記念として、代表作「猫の子」魚の説「兜の昇天」の三点の額入り複製画が販売された。





格調高く式辞を述べる光安一夫校友会会長



天野同窓会代表



大久保日歯会長



式典壇上にならぶ国内外の来賓諸氏



オータニ「芙蓉の間」に列席した参会者

さらに、モンゴル国立健康科学大学のアマルサイハン歯学部部長から、中原学長に伝統的な民族楽器の馬頭琴が贈呈された。

# 格調高く式

## 写真特集 伝統の一世紀



東儀秀樹氏による祝舞で、オープニング



慶びの挨拶を述べる中原泉理事長・学長



校友会表彰の生野先生の謝辞



メリランド大学のC. ストローラー歯学部長

【一面から】日本歯科大学を卒業し長い年月が経ったが、現在の輝かしい発展は、母校を中心に一丸となつて奮闘努力した結果である。と、先輩・同僚・後輩に心より敬意を表したい。母校は百周年記念館の竣工に象徴されるが、すでに新たな時代への歩みを始めている」と謝辞を述べた。

明治二十一年に東京の京橋に東京歯科専門医学学校という、わが国最初の歯科医学学校があり、一年半ほどで閉校になった。祖父はその塾生になつて歯科医学を修め、歯科医術開業試験に合格した。同校の校長は医師の石橋泉イヅミといったが、祖父はその字をセンという読み方で私の名前を命名した。このような私事をお話したのは、創立者の建学の精神は、今も脈々と受け継がれていることを申し上げたかったからである」と述べた。

ついで、百周年記念事業の協賛企業各社に感謝状が贈呈された。鏡開きとなり、壇上に千年も万年もという願いを込めて新潟の銘酒の百寿盃、千寿盃、万寿盃の樽が並べられた。中原学長、光安会長はじめ、来賓各位、大学、歯学会、校友会関係者が司会者の掛け声に合わせて、一斉に鏡開きを行った。

引きつづき、校友会の齋藤憲彬常務監事が乾杯の発声を行い、全員が高らかに乾杯をした。

100周年記念事業写真は校友会のホームページ <http://www.koyu-ndu.gr.jp/> にも掲載中

ついで、光安会長より中原学長に日本歯科大学育英奨学金の目録が贈呈された。つづいて、中山医学大学の周理事長からは、「百年歯教養育英才日本歯大万歳万歳」(百年の歯科医学教育を通じて多くの逸材を育ててきた日本歯科大学、万歳)と書かれた記念の書と楯が贈呈された。

ついで、百周年記念事業の協賛企業各社に感謝状が贈呈された。





鏡開き、千年万年の願いをこめて乾杯!、鳴り響く会場



オータニ「鶴の間」を埋めた祝賀会光景



周理事長より、記念の書と楯を贈られる



阿川泰子さんの美声に聞き惚れる参会者

# 世紀の祝宴

写真特集  
未来への創造



百年に一度の大校歌斉唱、と光安会長挨拶



全員で高らかに校歌を斉唱、壇上とフロア



万歳三唱、朝比奈敏行先生



モンゴルのア歯学部長が、馬頭琴を贈呈する



# 日本歯科大学創立100周年記念 全国校友大会



## 光安一夫校友会会長式辞

日本歯科大学校友会はこの記念すべき一年を通し、「建学百年・伝統と創造」を合言葉に、各都道府県校友会にお願いし、創立百周年記念校友大会を各地で開催してきました。

これに対し、校友会本部は日本歯科大学発祥の地である千代田区大手町に記念碑の建立をし、また、記念特別講演、市民公開フォーラム、オンライン講義、特別講座などの各種記念事業を開催してまいりました。

今日までの開催総数は

## 今こそ日本歯科大学

回、延べ参加人員は優に一人を越すことになるでしょう。

学校法人日本歯科大学をはじめとし、日本歯科大学歯学会、また教職員の皆様のご理解と協力をいただき、これに加え、全国校友諸氏の熱心なご

支援があり、本日までの多彩な事業の展開ができましたことを、ここに併せてお礼申し上げます。

今、百年の歴史を振り返って見れば、そこには数多くの困難、難問が横たわっていたのは確かです。しかしながらその都

のことがまさしく我が日本歯科大学の「伝統」でありました。私どもはこの伝統を検証しつつ、正しく後世に伝承していくなければなりません。

加えて、私どもには「創造」に向かって、さらなる第一歩を踏み出す勇氣と行動力が求められております。本日のこの記念すべき全

## 中原泉理事長・学長挨拶

明治三十九年に、旧制の歯科医師法が制定され、あわせて公立私立歯科医学校指定規則が施行されました。当時、歯科は黎明期にあり、この年の東京市には、正規の資格を有する歯科医師は、わずか一八七名しかいませんでした。そのため、歯科関係者は、国立の歯

科医学校を設置するよう国に働きかけましたが、歯科は富国強兵に関わりなしと、一顧だにされませんでした。

現在、本学は、生命歯学部と新潟生命歯学部の二つの歯学部をはじめ、大学院二つ、附属病院三つ、研究センター二つ、短期大学二つ、博物館一つを有する最大の歯科大学となりました。

## 百年の山に立つ

これを憂えて、開業医として盛名を馳せていた

に本学校校友会により記念碑が建立されましたが、皇居の大手門を臨む東京の中心です。本学は、この一九〇七年を暦年の起算としております。

本学は、創立者の自主独立、自助努力を建学の精神として、約一万九千名の歯科医師を社会に輩出し、本年二〇〇六年に創立百周年を迎えました。



現在、本学は、生命歯学部と新潟生命歯学部の二つの歯学部をはじめ、大学院二つ、附属病院三つ、研究センター二つ、短期大学二つ、博物館一つを有する最大の歯科大学となりました。

中原市五郎先生は、古稀の年に、「今日までの七十年を基として、さらにのぼらむ百年の山」と歌いました。この創立者の志を受け継いで、本学は今年、百年の山を築きました。私どもは今、この百年の山の頂ぎに立っているのです。

私は母校の百周年に巡り合わせた幸運と、百年の山を築いた母校を仰ぎ見る幸せを、皆様と共に慶びたいと存じます。

中原市五郎先生はじめ、百年間にわたる数多

## 女性卒業生の「百合の会」発足する



ユニセフ大使アグネス・チャン氏の講演に聞き入る

このたび、日本歯科大学の創立百周年記念事業の一環として、本学女性卒業生の方を対象に「百合の会」を発足することになり、十月九日、発足にあたっての記念講演会と祝賀会が東京會館において開催されました。

会の参加者は、第四十回卒から九十三回卒の一〇二名余りでしたが、来賓には中原泉学長、校友会から西川正昭専務理事、稲垣明弘常務理事のご出席をいただきました。

記念講演は、日本ユニセフ協会大使として多方面のボランティア活動で活躍されているアグネス・チャン氏にお願いしまし

た。みんな地球に生きる人」と題した講演では、戦争や内乱で難民となつたいろいろな国々の子供たちの悲惨な実情と、その支援活動の細やかな実体験のお話がありました。

参加者の涙と感動を誘うものでしたが、当会から「ユニセフ募金目録」の贈呈、参加者からの募金の寄せを祈りました。

祝賀会では、ピアノやフルートの演奏を聴きながら美味しい料理をいただき、同級生や友人の会話ははずみ、和やかな中に終了しました。参加者の皆さまからは、「楽しい

い会なので毎年続けてほしい」といった声が多数ありました。

日本歯科大学の女性の卒業生も年々増加して、最近では女性在校生が約三〇四割に達しています。それぞれ大学卒業後、歯科医業を継続しておられる方や、主婦になられる方も、今後、当会に多くの卒業生の皆さまのご参加をいただいで、実りある「百合の会」になつてほしいと思います。

どうか次回も、女性卒業生の皆様のご参加をお待ちしております。

「百合の会」代表  
大島弘子(五十四回卒)

## 辞令

- 助教授 刈部 洋行  
歯学部 矯正歯科  
教授に任命する(附属病院小児・矯正歯科)
- 生命歯学部小児歯科学講座に配置換を命ずる  
大学院生命歯学研究科の担当を命ずる(小児歯科学)
- 略歴・昭和38年1月生、62年3月本学卒業(第76回卒)、平成3年3月大学院歯学研究科修了、同年4月小児歯科学教室助手、13年1月附属病院小児・矯正歯科に配置換、14年4月講師を経て、16年4月助教授に就任。
- 歯学博士 寺田 員人  
教授に任命する(新潟生命歯学部歯科矯正学講座)
- 大学院新潟生命歯学研究科の担当を命ずる(咬合科)
- 略歴・昭和28年9月生、新潟生命歯学部歯科矯正学講座併任を命ずる
- 略歴・昭和39年9月生、平成2年3月本学卒業(第79回卒)、8年3月大学院新潟歯学研究科修了、同年4月歯科麻酔学教室助手を経て、11年4月講師に就任。16年4月新潟生命歯学部附属病院歯科麻酔・全身管理科に配置換
- 助手 高田 正典  
講師を命ずる(新潟病院口腔外科・本学第84回卒)
- 53年3月本学卒業(第67回卒)、57年3月大学院歯学研究科修了、同年4月新潟生命歯学部歯科矯正学教室助手、58年4月講師を経て、63年10月助教授に就任。
- 講師 大橋 誠  
博士(歯学)  
助教授に任命する(新潟病院歯科麻酔・全身管理科)
- 略歴・昭和39年9月生、平成2年3月本学卒業(第79回卒)、8年3月大学院新潟歯学研究科修了、同年4月歯科麻酔学教室助手を経て、11年4月講師に就任。16年4月新潟生命歯学部附属病院歯科麻酔・全身管理科に配置換
- 助手 高田 正典  
講師を命ずる(新潟病院口腔外科・本学第84回卒)

## 客員教員

- Dr. 劉 曙光  
客員助教授を委嘱する(新潟生命歯学部口腔外科学第二講座)  
平成十八年九月一日 本学
- 歯学博士 北村 中也  
客員教授を委嘱する(生命歯学部衛生学講座)  
平成十八年十月一日 本学
- 医学博士 石川富士郎  
客員教授を委嘱する(生命歯学部歯科矯正学講座)  
平成十八年十月一日 本学
- 医学博士 佐藤 喜宣  
客員教授を委嘱する(生命歯学部衛生学講座)  
平成十八年十一月一日 本学
- Dr. D.M. Brunette  
客員教授を委嘱する(生命歯学部衛生学講座)  
Dr. Baratchineg Batbayar  
客員研究員を委嘱する(新潟生命歯学部歯周病学講座)  
平成十八年十一月一日 本学

100周年記念事業写真は校友会のホームページ  
http://www.kouju-ndu.gr.jp/にも掲載中